

おくすり Q&A

GLP-1 受容体作動薬ってどんなお薬？

Q. GLP-1 受容体作動薬とはなんですか？

A. GLP-1 受容体作動薬は、食事をしたときに体の中で分泌される「GLP-1」というホルモンの働きを助けるお薬です。主に2型糖尿病の治療に使われており、**食後の血糖値の上昇をおだやかにする作用**があります。最近では注射薬だけでなく、飲み薬も登場し、治療の選択肢が広がっています。

Q. どんな効果がありますか？

A. このお薬には、**血糖値を必要以上に上げない働き**があります。また、胃の動きをゆっくりにし、脳に『満腹』のサインを伝えることで、**食べ過ぎを防ぐ効果も期待**されます。単独で使用する場合、低血糖を起こしにくい点も特徴です。

Q. 代表的なお薬を教えてください

A. ・リベルサス®錠（飲み薬・毎日服用）
・オゼンピック®皮下注（注射・週1回）
・マンジャロ®皮下注（注射・週1回）
※いずれも医師の処方が必要なお薬です。



Q. 飲み方・使い方の注意点はありますか？

A. 飲み薬は起床後すぐ、コップ半分程度の水で服用し、しばらく飲食を控える必要があります。注射薬は決められた曜日・方法で使用します。効果を正しく得るため、**自己判断で中止したり量を変えたりせず、指示を守りましょう。**

Q. 副作用はありますか？

A. 比較的多い副作用として、**吐き気、胃もたれ、便秘や下痢**などがあります。多くは使い始めに起こりやすく、続けるうちに軽くなるのがほとんどです。症状が強い場合は早めにご相談ください。

Q. ダイエット目的で使ってもいい？

A. このお薬は病気の治療を目的とした医療用医薬品です。**ダイエット目的での使用は安全面からもおすすめできません。**

薬剤師からのひとこと

お薬の効果を十分に得るためには、正しい使い方と、食事・運動などの生活習慣が大切です。わからないことや不安な点があれば、いつでも薬剤師にご相談ください。



執筆薬剤師 堀越 健一

わたしの 健康とくすり

第360号



今月の内容

- ・疾患シリーズ アトピー性皮膚炎とは（その1）
- ・ちょっとお耳を…… 新しい薬が使えない
ドラッグラグとドラッグロスについて
- ・おくすり Q & A GLP-1 受容体作動薬ってどんなお薬？

2026年1月発行

発行者 八王子薬剤センター 橘 隆二
東京都八王子市館町 1097 電話 042-666-0931

協力 八王子薬剤師会

疾患シリーズ

アトピー性皮膚炎とは(その1)

アトピー性皮膚炎は、強いかゆみを伴う湿疹が、良くなったり悪くなったりを繰り返す皮膚の病気です。かゆみが強いと、夜眠れなくなるなど、日常生活に大きな影響を与えることもあります。

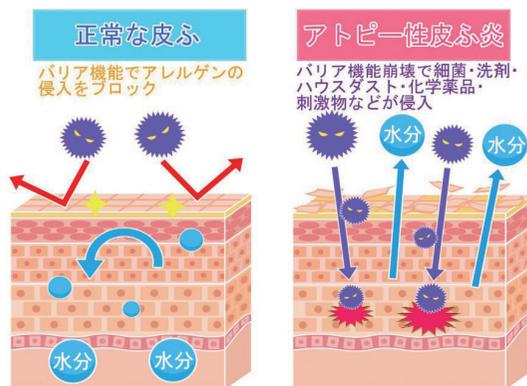
原因はひとつではなく、**体質(遺伝的要因)**に加え、**皮膚のバリア機能の低下**、**アレルゲン(ハウスダストや細菌など)**、**ストレス**などが複雑に関係しています。アトピー性皮膚炎では、皮膚の表面にある角質層が壊れやすく、水分が逃げやすい状態になります。その結果、外から刺激やアレルゲンが入り込みやすくなり、皮膚の中で炎症が起こります。(図1)



さらに、**かゆみ→掻く→皮膚が傷つく→炎症が悪化する**という悪循環に陥りやすいことも特徴です。見た目が一時的に良くなっても、皮膚の奥に炎症が残っていると、すぐに再発してしまいます。

治療の基本は、「**炎症をしっかり抑えること**」と「**皮膚のバリア機能を回復させること**」です。保湿剤によるスキンケアは毎日の土台となる治療で主にヘパリン類似物質と呼ばれる製剤が使用されます。また、スキンケアの基本としては「**皮膚を清潔に保つこと**」も大切です。低刺激性の石鹸を選んだり、入浴時に熱いお湯を使わないようにしたりと、日常的な注意が必要です。

(図1)



炎症がある部位には、重症度に応じたステロイド外用薬やタクロリムス外用薬などを使用します。ステロイド外用薬は22種類と数多くありますが、これらは、医師が科学的根拠に基づいて選択します。中には、ステロイドと聞くと抵抗を感じる方もいらっしゃいますが、適切に使用している限り全身的な副作用の心配はなく安全に使用することができます。

近年では、生物学的製剤と呼ばれる注射剤や新しい内服薬、外用薬も登場し、**適切な治療を継続すれば、症状がほとんど出ない「完全寛解」を目指すことも十分に可能**になっています。自己判断で治療を中断せず、医師・薬剤師と相談しながら、根気よく治療を続けることが大切です。

次回以降は、具体的な治療薬について、個別に解説していきます。

ちょっとお耳を…… 新しい薬が使えない ドラッグラグとドラッグロスについて

皆さんは「ドラッグラグ」や「ドラッグロス」という言葉を聞いたことがありますか？どちらも医療業界に関わる問題をさす専門用語です。あまり耳にしない言葉だと思えますがその意味と現状をご紹介します。

ドラッグラグとは

ドラッグラグとは、海外で承認されている新しい薬が日本で使えるようになるまでに時間がかかってしまうことです。海外ではすでに患者さんの治療に役立っている薬でも日本では承認のための審査や臨床試験に時間が必要で、数年遅れてようやく使えるようになる場合があります。例えば、日本とアメリカを比べると治験にかかる期間は約5倍、承認までの期間も2倍以上長いとされ、平均で約4年の遅れがあるとされています。このような背景で「海外ではもう使えるのに、日本ではまだ」という状況が続いてしまうのです。



ドラッグロスとは

ドラッグロスとは、海外で承認されている薬が日本では承認申請や開発すらされず、結果的に国内で使えなくなってしまうことです。ドラッグロスが起こる原因は海外の企業が日本での薬の販売に利点を感じられないことが関わってきます。要因として挙げられるものは、世界的に見て日本人が少ないこと・日本での治験に手間がかかること・日本の薬価制度が関わってきます。特に日本の薬価制度については大きな要因になります。日本では毎年薬価改定価格行われます。薬価改定が行われると**基本的には薬価が下がる**ことが多く、**海外企業が望む価格を維持できない**場合があります。そのため「**日本市場では採算が合わない**」と判断され、ドラッグロスにつながってしまいます。



ドラッグラグとドラッグロスの改善に向けた取り組み

厚生労働省は2023年3月末日において海外では承認されているのに日本では未承認の医薬品が143品目ありそのうちの78品目は承認申請されていないことを公表しました。ドラッグロスとドラッグラグを改善するために厚生労働省は2024年度から**日本で必要性が高い薬とそうでない薬を分け、必要性の高い薬を優先的に承認できるように国内企業へ開発を依頼する仕組みを整えて実施しています。**今までは学会や患者会等からの要望を受けてから未承認薬の申請に取り組んでいましたが、国が能動的に医療上の必要性の評価のために情報の整理を行い必要性の高い薬・低い薬と分け国内企業に開発を依頼していく方針を発表し実施しています。

最後に

もしドラッグラグやドラッグロスが解消されれば、これまで治療が難しかった病気に対応できる薬や、より効果の高い薬が日本でも使えるようになる可能性が広がります。治療の選択肢が増えることは、患者さんやご家族が安心して暮らせる日々へつながっていきます。

